



ホワイトバード通信 2016年1月号

1. 最近の活動

1.1 携帯電話の動向調査

日本においては、人とインターネットの接点たるデバイスは、一方向的に小型化に向かっています。1990年代の企業や大組織内のワークステーション時代から、個人用のPC利用が広がり、2000年代には携帯でもインターネットへの接続が広がりました(i-mode等)。2010年台にはタブレットのような新デバイスが生まれたものの、用途からいってこれは専らにラップトップの小型化と考えると良いでしょう。現在、インターネットの利用は携帯もしくはタブレットが主流になってしまっています。今後はさらなる小型化と埋め込みデバイスとしての展開があることでしょう。

市井の一般の人々のインターネット利用が携帯からとなってから、ウェブのあり方が大きく変わりました。おおまかにいって、詳細なテキストの入力が避けられ、なるべく単純化した入力に変わったのです。2次元コードの導入もその例でしょう。表示も同様で、長々とした解説や複雑な図絵は携帯インターフェースでは全く受け入れられません。

一般のインターネット利用が携帯であるならば、攻撃者も当然携帯システムの利用に傾いてきます。こうした流れで、ホワイトバードも携帯技術の動向には着目しています。

攻撃者の立場から携帯を見たとき、まず厄介に感じるのは、携帯電話不正利用防止法等による身元確認でしょう。携帯の持ち主の身元をはっきりさせて悪用を避けることになっています。攻撃者は身元をはっきりさせたくないにちがいありません。そこで、プリペイド携帯、海外向けの携帯、SIMフリーの携帯などを応用して身元をかくすことが行われているようです。

2. スポーツと身体に関わる業務内容

2.1 正月休みの功罪に関する考察

お正月休みの間の身体調整や鍛錬はどうあるべきでしょうか。昔から、多くの人がお正月

明けの体のなまりに悩んできました。具体的に体重を増やしてしまう人も多いようです。地域の風習が重要だった時代と異なり、常に世界との関係性が問われる現在は、お正月の過ごし方も見直しが必要と思われれます。

自治体や大手企業の多くは、12月29日から1月3日まではお正月休みです。これにつられて、自治体が管理する数多くのホール、市民センター、あるいは練習場の類も全く利用ができなくなります。しかしながら、この1週間（1年のうちの2%）施設は空いて死んだ状態になり、逆に常に体を動かしたい（あるいは世界と関係性を持っていたい）と思うアスリートやダンサーは路頭に迷って死んだ状態に追い込まれます。win-winならず、lose-loseな状態です。

例えば、東京のアーキタンツというバレエのオープンクラスが開かれている場所は、元日を含めてお正月の間は激しい混雑で、参加者を制限するほどです。お正月の間も施設の需要は大いにあるはず

以上

2016年1月1日